



みんなでコロナ予防に努めています。それでも感染することもありますから感染した人が悪いのではないと教えています。感染拡大を押さえたいです。健康観察と「登校前」の連絡をお願いします。

よいことばかいでなく、 あえて、心配なこと

家庭学習強化週間での、子ども達のおうちでの学習や生活の様子について“記録”を見せてもらいました。中学校とも合わせて、メディアを我慢することなど家族のご協力をいただいていたことがうかがえました。

そんななか、心配なこと浮かび上がっています。最近行った「学校運営・教育活動アンケート」や以前行った「いじめ・いやなことに関するアンケート」など保護者へのアンケートの際に、おうちの方が書いてくださることの中で、メディア（ゲーム、スマホ・ケイタイ、タブレットなど）の使用について「言うことを聞かせられないで困っています。」という内容が見られるようになってきました。他にも、「すぐに「死ね!」「殺す!」という言葉が出る」という声も聞かれます。さらには、「ゲームを禁止したらふてくされた」とか「暴れた」という子はいないものかと心配もされます。

学校での子ども達の様子の変化からは

- ・朝、目を真っ赤にしてくる子
 - ・ぐったりとして机の上に顔をべったりさせて座る子
 - ・背伸びを我慢できなかつたり、首をグルグル、目があちこち、などが止まらないでじっとしてられない子 ※我慢できないのではなく、我慢する気が起きないとしたら、さらに心配です。
- ：

が見られるようになっていきます。

このようなことをお伝えしたら

お伝えすることでご心配をおかけしないかとか、「学校は何を指導しているのか」とご心配をいただくのではとも考えました。それでも、これまで学校にご理解と応援をいただいているからこそ“よいこと”だけでなく“心配なこと”も伝えなければならないと考えました。メディアについては、「学校だけでは改善できないこと」です。きっと、「子どものためには大切なこと」としてご理解いただけると考えてお伝えしています。

子どもはまだ発達途中です。楽しいことに流されることもあります。また、そわそわする雰囲気も教室に広がりやすいものです。ですから、「うちの子」だけではなく、どの子のこともみんなで見て、集団を丸ごと守り育てていかなければなりません。

メディアの問題については、「時代の流れだからしかたがない」とはあきらめたくないと考えます。殊に、地域のまとまりと協力があるここ種市では、あきらめないで取り組めば改善できるのではないかと思うのです。

「大人の側の問題」としても、とらえることを

子ども達が年齢制限を超えるゲームを使っていることが分かり、一昨年度は校報や面談でもおうちの方々に注意いただくようお願いしました。耳障りだったと思いますが、どちらのおうちの方も「**そうだったのですか。**」とか「**親自身が気がつきます。**」と、よく聞いてくださいました。昨年度も話題にし、子どもの問題だけではなく、「知らないうちにやらせている大人の側の問題でもある」ととらえ直す声が増えるようになってきました。このような意識や危機感がすべてのおうちに伝わってほしいと考え、再度、お伝えしています。

ゲームの年齢制限

◆新CEROレーティングマーク



◆旧CEROレーティングマーク



年齢制限は世界中で行われている制度（レーティング制度）で、日本では「CERO（特定非営利活動法人）」が国内のゲームソフトについて審査しています。

CEROの審査は、「暴力」「性的な表現」「犯罪」「言葉づかい」「思想」などの視点で行われていて、ゲームに左のような表示がありあす。

世界では、罰則がある国もあります。（日本はありません。おうちの方の教育に対する信頼が高いと思われます。）

おうちの方々が小さい頃夢中になったファ○コンとは次元が違うほど危険があるようです。また、機器は、ファ○コンから徐々に発展していますが、「人気ができるように」開発されていますから人（子ども達・大人）の「**はまり具合**」もどんどん強くなります。

はじめは「**大人と一緒にやっているからいいのでは？**」とか、おうちの方がやっていて「**トイレに行ってくるから代わりにやっています**」ということから始まっても、徐々によくない方向に進んだという事例がいくつも報告されています。ですから気をつけたいことは……。

大人がやるにしても、大人と子どもの時間を分けること

他のものと同様に制限があるものは子どもの目に触れさせないようにしたいです。ゲームは“おもちゃ”という感覚があつて他の物と比べて「危ない」という意識が低くなりがちです。でも**その“おもちゃ”が大変**になっているのが現実です。

「友達も持っている」とせがまれても「ダメなものはダメ」と毅然と話すこと

酒やたばこ、大人用の雑誌などと同様に、やはりよいわけはないと考えます。“制限があること”も子どもを納得させる材料にもなるかと思えます。

「ゲームしたら〇〇国の知らない人が入ってきた！」という子どもの声

ここから予想される危険は何でしょう。

- ・知らない人と、文字や音声でお話ができるとしたら？（ゲーム相手になりすまして、何回かの後に何かの誘いがある可能性は？）
- ・「そんなことはめったにない？」と言えるでしょうか。世界とつながっています。子どもには言いたくないですが、**悪意がある人は、「信用させるようにがんばる粘り強さ」**をもって狙います。

「自分の部屋に行ったらは何をしているか見えません」ということはないですか

たとえ年齢制限をクリアしていても、使い方はどうでしょうか。「持たせたはいいがそのあとは言うことを聞かせられない」という声をご紹介しました。お盆などいろいろと子ども達がおもちゃを手に入れる機会が多いと思えます。子どもに物を持たせるときから、立ち止まって慎重に考えていきたいです。